

学ぶ領域の 得意

文部科学省 研究開発学校
令和6、7年度 目黒区立油面小学校 校内研究

自分らしく学び
自分らしく生きる
子供の育成

～「学び方の得意」と「学ぶ領域の得意」を
見つけていく学習を通して～

学び方の 得意

はじめに

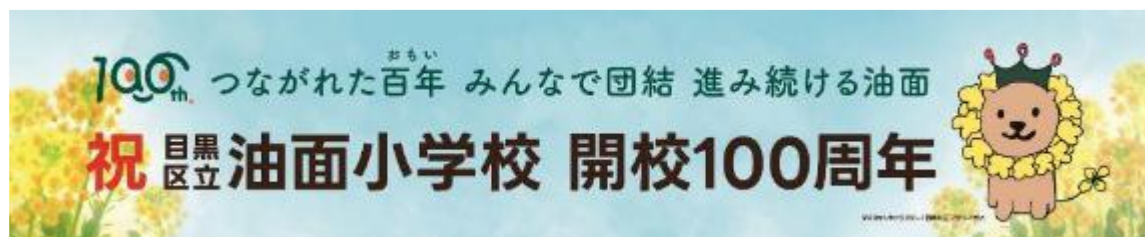
油面小学校は、令和3年度から令和5年度まで、40分授業午前5時間制により生み出した時間を活用して、「アブラカタブラ教室」を実施してきました。「アブラカタブラ教室」は、各教員が設定した講座を子どもが主体的に選択し、学年の枠を超えて同じことに興味がある仲間と活動する時間でした。

そして、令和6年度からは「アブラカタブラ教室」を発展させ、「アブラカタブラゴールド」をスタートさせました。「アブラカタブラゴールド」は、自分の興味・関心に基づき、やりたいことに夢中になって取り組む自己選択学習の時間です。活動内容、場所、個人かグループかなど、かなり自由度の高い時間のため、私たち教員も「何をどこまで認めればよいのだろうか」「このままでよいのだろうか」といった思いも抱えていました。しかしながら、「この時間は、子どもたちに返す時間」ととらえ子どもたちを見守っていると、子どもたちの真剣な表情や輝く笑顔、授業中には見られない一面が見られ、手応えを感じるようになりました。登校しぶりのある子どもも、この時間を楽しみに登校する様子が見られました。令和6年7月には、講師の奈須正裕先生に初めてご指導いただき、この取組を価値付けていただいたことで、このまま進めてよいのだという私たちの大きな自信につながりました。また、奈須先生のご助言を受け、年度の途中でカリキュラムを編成し直し、3年生以上には、60分の活動時間を確保し、子どもたちは存分に自分のやりたいことに取り組めるようになりました。さらに令和7年度は、「アブラカタブラ日記」（個人の取組の足跡を残すもの）や「カタブラータイム」（任意に発表、展示ができる機会）などの取組を行うなど、進化・充実に努めているところです。

また、令和7年度からは、「学ぶ領域の得意」を見つける学習（アブラカタブラゴールド）と、「学び方の得意」を見つける学習（教科等の時間に学ぶ順番や学習方法など、自分に合った学び方で学習を進める）の両輪で研究を進めてきました。後者の方は、まだまだ手探りの状態ですが、各学年・学級が積極的にチャレンジし、様々な教科で実践を積み重ねているところです。今後も、他校の先行研究を学びつつ、油面小学校の子どもたちに合った持続可能な単元づくりを行っていきたいと思います。

研究主題にある通り、本研究が「自分らしく学び、自分らしく生きる子ども」の育成を実現させ、ここ油面小学校から、自己肯定感が根付いた子ども、互いのよさを認め合える子どもが育っていくことを心から願っています。

目黒区立油面小学校 校長 衣非 まさ子



目 次

ページ	内容
1	はじめに
2	目次
3	令和6年度 研究のあゆみ
4	令和7年度 研究のあゆみ
5	令和7年度 研究構想図
6	令和7年度 研究構想図 解説Q&A
7	「学ぶ領域の得意」を見つける自己選択学習
8	アブラカタブラゴールドのあゆみ
9	アブラカタブラゴールドの時間
10	第1学年 アブラカタブラゴールド
12	第2学年 アブラカタブラゴールド
14	第3学年 アブラカタブラゴールド
16	第4学年 アブラカタブラゴールド
17	第5学年 アブラカタブラゴールド
18	第6学年 アブラカタブラゴールド
19	わかたけ アブラカタブラゴールド
21	アブラカタブラゴールド 児童のアンケート結果
22	アブラカタブラゴールドについて 上智大学 教授 奈須 正裕先生の指導
25	アブラカタブラゴールドについて 区共通調査の結果及び成果と課題
27	「学び方の得意」を見つける自己選択学習 単元づくりの流れ
28	「学び方の得意」を見つける自己選択学習 各学年の実践の概要
29	第1学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
31	第2学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
33	第3学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
36	第4学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
38	第5学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
40	第6学年 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
42	わかたけ 「学び方の得意」を見つける自己選択学習の実践
44	終わりに
45	令和6・7年度 ご指導いただきたい先生及び教職員

令和6年度 研究のあゆみ

4月 自己選択学習「アブラカタブラゴールド」(裁量20分)の実践開始
学校全体オリエンテーション
学年別オリエンテーションの実施

7月16日(火) 第6学年 公開「アブラカタブラゴールド」(裁量の時間)
研究協議会
【講師】上智大学 教授 奈須 正裕先生

9月6日(金) 第5学年 公開「アブラカタブラゴールド」(裁量の時間)
研究協議会

9月30日(月)より アブラカタブラゴールドを裁量40分で実施

10月15日(火) 愛知県南浦町立緒川小学校公開授業 参観

11月21日(木) 第3・4学年 公開「アブラカタブラゴールド」
(裁量の時間)研究協議会

12月2日(月)より アブラカタブラゴールドを裁量60分(低40分)で実施

1月18日(土) 「アブラカタブラゴールド」保護者説明会(学校公開)

1月22日(水) 「アブラカタブラゴールド」小中連携の日公開

2月13日(木) 第1・2学年 公開「アブラカタブラゴールド」
(裁量の時間)、研究協議会
【講師】上智大学 教授 奈須 正裕先生

3月3日(金) 保護者対象の公開「アブラカタブラゴールド」

令和7年度 研究のあゆみ

- 4月 自己選択学習「アブラカタブラゴールド」
学校全体オリエンテーション
学年別オリエンテーション
①ふりかえりシート「アブラカタブラゴールドのあしあと」の
新規実践開始
②前期1回、後期1回の発表・展示の時間「カタブラータイム」の
新規実践開始

5月30日(火) 学習指導研修会「授業の基本の『き』」
第3学年 社会科「わたしたちの目黒」
示範授業・研究協議会
【講師】主幹教諭 平田 孝一郎

愛知県南浦町立緒川小学校公開授業 参観
目黒区立中目黒小学校 公開校内研究 参観
小金井市立小金井南小学校 公開校内研究 参観

9月 教科における「学び方の得意を見付ける自己選択学習」の
実践を各学年の実態に合わせて開始
保護者会で家庭学習における自己選択学習について説明

2月12日(木) 第3学年 公開授業「2教科单元内自由進度学習」
国語科「たからじまのぼうけん」
社会科「目黒区のうつりかわり」
研究協議会
【講師】上智大学 教授 奈須 正裕先生

令和7年度 研究構想図 解説Q&A

Q1 「自分らしく学び、自分らしく生きる子供の育成」を研究主題にかかげたのはなぜですか？

A1 本校の児童は、一つのことに継続して取り組むことが難しい傾向があるため、物事をしっかりと理解したり、考えを深めるところまで到達させたりすることが課題です。また、見通しをもって計画的に考えて行動することも課題です。

このような実態のある児童が、目黒区の研究開発学校に求められる「一人一人の自己調整力」を高めていくためには、自分の好きや得意を見付け、生かす「学び方の得意を見付ける自己選択学習」と自分に合った「学び方の得意を見付ける自己選択学習」の2本柱の実践が有効であると考え、「自分らしく学び、自分らしく生きる子供の育成」を研究主題にかかげました。

Q2 「学び方の得意を育む単元づくり」とはどのような研究ですか？

A2 学ぶ順番、学びにかかる時間、学習内容の選択、表現方法など、多様な学び方を経験し、学び方を選択できる単元づくりの事です。自己選択が可能な単元づくりを行うことで、児童が学習の進捗や成果、課題を振り返り、自分に合った学習となるよう自己調整することを通して、自らに合った学び方で目標を達成できることを目指しています。

Q3 「学ぶ領域の得意を育む自己選択学習
(アブラカタブラゴールドの時間)」とはどのような研究ですか？

A3 子供一人一人の興味・関心に基づき、やりたいこと(好きなことをもっと知りたい、もっとうまくなりたい等)に夢中になって取り組む活動を通して、自己肯定感や相互承認の力を高め、自分らしく生きる子供を育てることを目指しています。

本校は学校独自の「裁量の時間」で実践するため、総合的な学習の時間などの教科の目標や評価に関連付ける必要がありません。研究開発学校として、児童が「したい」「やりたい」という児童の主体性と創意・工夫をより一層尊重して、研究を行っています。

「学ぶ領域の得意」を見つける 自己選択学習

アブラカタブラゴールドとは？

→子供一人一人の興味・関心に基づき、やりたいこと
に夢中になって取り組む時間



やりたいことにじっくりと
取り組める時間の確保

年間 33時間

毎週 金曜日

1、2年生
→40分×32回
3～6年生
→60分×21回

学年ごとに内容、時間、範囲を **段階的に広める**



児童の取り組みの
足跡を残す

アブラカタブラ日記
(2～6年生)



教師による児童の
見取り・サポート
学習用情報端末での
活動記録の共有



年3回、取り組んだことを発表したり
表現したりする **カタブラータイム**



多様な場所や用具を選択できる
学習環境の充実

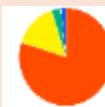


児童の取り組みを紹介し、価値付ける
「みんなのキラリ」掲示板



アンケートによる成果・
課題の把握、分析・検証

Q22『自己選択学習について』『自己選択学習の
課題』は、大切にしたいですか。



自己肯定感



相互承認の力



自分らしく生きる力



アブラカタブラゴールのあゆみ

令和5年度

アブラカタブラ教室の実施

教員が様々な内容の講座を開き、子供が自由に選んで参加する機会。同じことに興味がある仲間や様々な先生との関わりを通して、学びに対する視野を広げる機会となった。



令和6年度

アブラカタブラゴールド(自己選択学習)の開始

年間33時間、自分のやりたいことにじっくり取り組む時間。
当初1回20分で行っていたが、時間が短く十分に活動ができなかったため、途中から60分に変更した。



令和7年度

アブラカタブラ日記(活動の記録)の実施
年3回、カタブラータイム(発表、展示)の設置

アブラカタブラゴールの1年間の流れ

4月 オリエン テーション

1、2年、わかたけ
学級はクラスごとに、
3～6年生は全員で、
アブラカタブラゴール
ドの時間について
理解したり、自分の
計画を立てたりしま
す。



5～2月 活動

校庭、理科室など
自分の活動に合わ
せて場所を選べます。
(3～6年)



7月・12月・2月 カタブラー タイム

年3回、自分の取
り組んできたことを
発表したり、作品を
展示したりするこ
とができます。自分
のペースで発表したり、
友達の発表を聞き
に行くことができます。



2月 児童による 振り返り アンケート

自分の1年間の活
動を振り返り、自分
の得意を見つめ直
す時間を設けます。
また、今後の研究に
生かすため、全校児
童にアブラカタブラ
ゴールドについての
アンケートを実施し
ます。

アブラカタブラゴールドの時間

図工室



理科室



3～6年生 教室



家庭科室



音楽室



体育館

校舎

校庭

わかたけ

視聴覚室



1、2年生 教室



体育館



校庭



わかたけ



第1学年

アブラカタブラゴールドでの児童の様子

1年生は、興味の幅を広げられるよう、教師の方から、課題を提示している。課題設定としては、幼稚園や保育園などで、遊びを通して得た経験が発揮されるようなものになるよう担任が工夫をしている。始めは、「色」を極めるために、色塗りのカードを複数用意した。自分の好きな色を決めて、その色集めをタブレットで写真を撮った。次は、少しレベルアップをして、興味のある先生にインタビューをし、その内容をタブレットで録音し、似顔絵や文字でまとめる活動を行った。児童は、テーマが変わっても、毎時間アブラカタブラゴールドの時間を楽しみにしている。

指導の手立て

4月～12月 担任から課題を提示

○入学初期から円滑にアブラカタブラゴールドの導入ができるよう、子供たちが興味・関心を広げたり、多様な学び方を知ったりすることができるような課題を担任から提示した。

1つのこと（色）に注目して「極める」活動

【教室探検 ○色な物あつめ】

教室の中から特定の色の物を見付けて共有する。

【ぬり絵名人になろう】

色の濃さや縁取りなどを工夫してぬり絵をする。

【校内○色探し】

自分で決めた色を学校内で探し、記録写真を撮る。

調べたことをまとめる、表現する活動

【お気に入りの動物図鑑づくり】

図書室で図鑑を選び、必要な情報を抜き出しながらオリジナルの図鑑をつくる。

【オリジナル本づくり】

様々な大きさの画用紙や作文用紙、学習用情報端末などを使って、絵本や図鑑、物語をつくる。

学習用情報端末を使った活動

【先生インタビュー】

- ①詳しく知りたい先生にインタビューに行く。
- ②インタビュー中の音声を録音する。
- ③音声を聞き返しながらカードにまとめる。

【「ロイロノート」間違い探しづくり】

- ①学習用情報端末で写真を撮る。
- ②「ロイロノート」の機能で写真を複製する。
- ③写真に色を塗ったり絵を描き足したりして「間違い」をつくる。

1月～3月 自由に課題を設定する

○これまでの活動や表現方法などの経験を活かして、自ら自由に課題を設定する「アブラカタブラゴールド」の実践へ移行した。

○活動内容を毎時間変えるのではなく、1つの活動を継続して深めていくよう児童には意識させた上で、活動内容を決めるよう指導した。

1年生 Aさんのあしあと

12月までは、教師が提示した、「塗り絵」、「色探し」、「先生のことを知ろう」「本づくり」などに、興味をもって主体的に取り組んでいた。中でも、「本づくり」は特に楽しかったようで、オリジナルのお話を2冊作っていた。



1月からは自分の興味のあることに取り組んだ。車が大好きで、車の図鑑を持ってきて、画用紙に車の絵と名前を書いていた。「みんなに色々な車の名前を覚えてほしい」と、意気込んで取り組んでいた。



2月に入っても変わらず、車の絵と名前を画用紙に書いていた。書いてたまってきた画用紙を、セロハンテープを使い、自分で製本していた。



2月中旬頃からは、周りが取り組んでいることにも気になり始めた。特に、けん玉をやっている友達が気になり、「貸して」と言って、けん玉に取り組む姿もあった。2月下旬には、最初は車の図鑑づくりに取り組むが、すぐにけん玉をしている友達のところに行き、ほとんどの時間けん玉をしていた。2月の最後の回は、最初から1時間けん玉に取り組んだ。



第2学年

アブラカタブラゴールドでの児童の様子

2年生は教室と廊下という限られた場所だが、自分たちで活動内容を決め、準備をし取り組んでいる。児童には、好きなこと、得意なことを深める活動であると伝えているため、活動内容を吟味し継続して活動が続いている。児童は、一つのことを満足いくまで続けた後、新しい活動に変更して取り組んでいる。

また同じ活動をしている仲間を見つけて一緒に取り組んでいるため、新しい人間関係が培われていることも、アブラカタブラゴールドならではの魅力である。児童は、アブラカタブラゴールドの時間をとても楽しみにしており、生き生きと活動している。



指導の手立て

オリエンテーション

- アブラカタブラゴールドは、1年生で学んだ取組や表現方法などを生かしながら、自分で自由に活動内容を決め、継続して取り組む時間であることを教師から児童に伝えた。
- 活動内容を毎時間変えるのではなく、1つの活動を継続して深めていくよう児童には意識させた上で、活動内容を決めるよう教師から児童に指導した。
- 自分で決めた活動内容に合わせて、自分で用具を準備することを基本とした。

<2～4年生> <5, 6年生>

もっとうまく	挑戦
もっとくわしく	探究
もっとすきに	挑戦
もっとみつける	

* 3回は続けよう

教師の関わり方

- 活動内容を自分で決められずにいる児童には、教師が積極的に声を掛けた。興味があること、もっと上手になりたいことなどについて会話を重ね、児童が自分で決められるよう支援した。
- 用具が揃わず、活動が進まない児童に対しては、学校で準備できるものは貸与し、できる限り児童の活動の希望が叶うよう環境調整を心掛けた。
- 一人で活動することも認めつつ、同じ活動をしている他の児童と一緒に活動することも勧めた。

カタブラータイム

- 初回は、あまり発表をしたいという児童がいなかったが、発表をしている児童を見て、自分もやりたいと言う児童が増えた。
- 上級生のカタブラータイムを見学に行く機会を設けた。自分の今後の活動の参考になっている児童もいた。



活動の把握の方法

- 教師が適切な支援を行うためにも、児童一人ひとりの活動内容を把握しておく必要があると考え、活動カード(ロイロノート)を提出させた。内容を変更する場合は、その都度カードを提出するようにした。

2年生 Bさんのあしあと

年度当初、Bさんは1年生から続けている活動を引き続き行っていた。周りを見渡し、新しい活動に変更している児童が多いことに気付き、新しい活動を始めたいと思うが、用具が準備できず、興味のあるグループに入れてもらい一緒に活動する。しばらく活動が決まらない姿が見られた。



やがてBさんは図書室で見つけた絵本が好きになり、物語を創作したいと思うようになったが、用具を準備できず、活動も進まず、何をしたいのか教師がを尋ねると、「自分でお話を考え、絵を描いて本を作りたい」と言った。作文用紙と表紙にする色画用紙を与えると、しばらくの期間、黙々と取り組む日々が続いた。

絵本作りの活動については、自分なりに活動をやり切り満足していた。「さて次は何をしよう」と、とりあえず手近にある鍵盤ハーモニカを始めた。普段、あまり交流のない女子の中に入れてもらうが、すぐに飽きてしまった。その後、仲良しの友達と学習用情報端末を活用した取組を行うが、満足できない様子であった。



女子がダンスをしていて楽しそうだったので、仲間に入れてもらうことにした。しかしうまく踊れず、ひとまず学習用情報端末で活動を始める。でもダンスが気に入り、また仲間に入っていた。児童が自分のペースで活動を中断したり、再開したりできるのもアブラカタブラならではの良いところである。



第3～6学年

アブラカタブラゴールドでの児童の様子

- 約6～7割の児童は友達と関わりながら活動を行っており、約3～4割の児童は個人で活動している。
- 一つのことを継続してやり続けている児童もいれば、興味がどんどん変わっていく児童、何をするか定まっていない児童などもあるが、9割以上の児童がアブラカタブラゴールドを楽しみにしている。
- 場所や内容もそれぞれ違う活動をしているが、隣でやっている人を見て自分もやってみたくなるなど、自然発生的なかかわりも多く見られる。
- 生活や学習の中で気になったことを、アブラカタブラゴールドの時間に調べてみよう、やってみようという児童が多く、「アブラカタブラゴールド=追究する時間」という認識が生まれている。

指導の手立て

オリエンテーション

- 油面小独自の特別な時間であり、「やらなければいけない」ではなく、「やりたいことを好きなだけやれる」時間であるという意識付けを行った。
- 担任だけではなく、他の先生方にも相談に乗ってもらえる時間を設定し、アドバイスをもらえるようにした。



教師の関わり方

- 教員が基本的に同じ場所で安全管理を行い、児童の活動の様子を継続的に見守っている。
- 教員も一緒に活動に参加をしたり、他の人の様子を伝えたりすることで、児童の視野を広げることを心掛けている。
- 本人の自発的な行動に寄り添うように個々に声掛けを行っている。



アブラカタブラ日記

- 「振り返り」ではなく、あくまで自分自身の行った内容や思考の形跡を残しておくためのもので、自分自身を知るためのツールとして活用している。
- その日の活動のことだけではなく、次時の予定を書いたり、全体の回数を見て、年間の内容を調整したりする姿も見られる。



カタブラータイム

- 全体としての発表や展示の機会は年3回だが、強制ではない。その時にできたものを周りの人に披露することは常時行われている。
- 高学年になるにつれ発表者は減る傾向があるが、発表や展示を見て、次は自分もやってみようとする児童も目られる。



3年生 Cさんのあしあと

年度当初はやりたいことが決まらない様子であった。教室にいる他の児童の調べ活動をのぞいたり、理科室や図工室など、2年生の時までは使えなかった教室を見たりして、自分の活動を吟味していた。

6月 自宅から磁石を持参し、砂鉄集めを開始した。アブラカタブラゴールドの時間になると、校庭のいろいろな場所で砂を集め、砂に磁石をあてて、砂鉄を集める活動に没頭していた。



9月 学習用情報端末を活用したお絵描きに夢中になりだした。プログラミングソフトで、簡単な動きを繰り返しアニメーションを作成したり、絵文字を組み合わせ、様々なお絵描きをしたりするようになった。6～9月にかけて、磁石、校庭、砂鉄、学習用情報端末などの環境や学習材により、自分の好きなこと、やりたいことを選択し、豊かにアブラカタブラゴールドの時間を過ごすことができるようになってきた。



10月 活動場所が図工室になった。まずは、自分の理想の家づくり。工作用紙を均等に折り曲げて階段を作ったり、カッターを器用に使って出入口を作ったりしていた。



1月 手作りの気球を飛ばしたいが、思うように飛ばせない。高いところに行く？風で浮かせる？そんなところに4年生の救世主が現れた。おもりを付けて改良したり、投げ方を教えてもらったり、自分ではたどり着かなかった考えに触れ、無事に気球を飛ばすことができた。



2月 国語科「ありの行列」の学習後、ありへの関心が高まった。実際のありの行列を観察したり、虫かごに土を重ねてありの巣を観察したりした。観察だけでなく、「あり市あり区」という架空の町を絵に表した。社会科で学んだ、まちの特徴を踏まえて、駅や学校お店の位置も工夫した。あらゆる学習が少しずつCさんの中に蓄積されている。



4年生 Dさんのあしあと

Dさんは、見通しをもって学習に取り組んだり、集中して学習に取り組んだりすることが苦手な児童である。第3学年の時から始まったアブラカブラゴールドの時間が大好きであり、アブラカブラゴールドの時間になると、「次は何をやろうかな。」とじっくりと時間をかけて、自分の今やりたいと思うことを考え、見つけてきた。

4月当初は、太陽光発電機を作ると決めたものの、「先生、もってくるものを忘れてしまいました。何をしたらよいのでしょうか。」と教師に相談することもあったが、夏休みには、アブラカブラゴールドのことで頭がいっぱいであつたようで、「これやりたいから、〇〇をもってきておこう!」と夏休み明けからのアブラカブラゴールドの時間についても期待をふくらませ、準備をするようになっていった。



9月、Dさんは、風力発電カーを作ると決めた。「今日は理科室で活動します。サーキュレーターを使って、風を当てて実験したいからです。学校だと広いスペースで、自由に道具を使って作ることができてうれしいです。」と教師に語り、取り組んでいた。このように、やりたいことを実現するために適切な場を選択する姿が見られるようになってきた。

10月、Dさんは、映写機を作った。「いろいろな人に作品について「すごい」と言ってもらえた。すごく嬉しかったです。」と教師に語った。このように、自分が好きなことや得意なことに没頭した結果、自己肯定感を高め、自分らしく生きようとする姿が見られるようになった。



2月、Dさんは、ラジオを作った。家でキットを準備し、開始のチャイムとともに早速開封して、夢中になって作成した。カタブラータイムには、黒板でラジオの仕組みについて解説した。下級生にも分かりやすく言葉を選び、自信をもって熱く語る姿が見られた。

5年生 Eさんのあしあと

【テーマ設定】

Eさんは継続して「野球を極める」というテーマを設定した。「捕る・投げる」「打つ」「走る」など、野球の技術を向上させ、将来の夢に繋げることを目標に、毎時間の活動を振り返り、よりよい練習メニューを改善して、継続的に活動を進めた。



【捕る・投げる】

友達とキャッチボールを行い、様々な打球を想定した実践に近い練習に取り組むとともに、「捕る→投げる」をセットで練習する工夫をした。



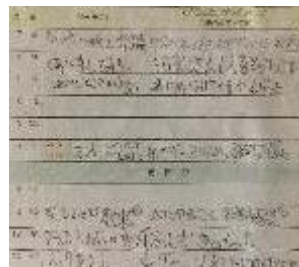
【打つ】

止まっているボールを打つ練習にも取り組んだ。さらに、友だちに投げてもらったボールを打ったり、試合形式で実践的な練習にも取り組んだ。

【走る】

盗塁の練習にも取り組んだ。友だちと交代でアドバイスしながら練習を行うことで、お互いの動きの良さにも気付くことができるようになってきた。

1年間を通して、一貫して野球の練習を行っていたが、その中でも「今日は守備の練習をする」などと毎回目標を決めて、行っていた。



6年生 Fさんのあしあと

4～6月は、どんなことをするか定まらず友達やっていることを一緒にやらせてもらっていた。そのため、ストレッチ、羊毛フェルト、メイク等、毎回異なる内容の活動を行っていた。同じ教室でも様々な活動をしているので、その時々で調べているものを話したり、活動を見たりして、影響を受けていた。



7月に一緒に活動している友達が都市伝説について発表し、多くの人が見に来て大盛況だった。内容も続きが気になる面白いものだったので自分でも「ディズニーランドの都市伝説」について調べ始めた。また雑学なども調べていた。



11月のカタブラタイムでは、友達と一緒に調べていた都市伝説について発表することができた。学年を越えてたくさんの人が見に来ており、恥ずかしそうにしていながらも堂々と発表することができた。友達と過ごすことで、刺激を受け自分が興味をもてるものを見つけることができた。

1～3月は、11月の発表で一区切りしたこともあり、また新しい雑学を調べたり、ディズニーランドやUSJなどについて調べていた。1年を通して教室で調べものをするが多かった。3月の最後のカタブラタイムではダンスの発表を見に行っていた。おすすめのアブラカタブラゴールドについては、「雑学を知ると頭が良くなると思う」と書いていた。



わかたけ学級

アブラカタブラゴールドでの児童の様子

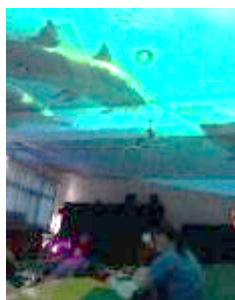
できる限り、2・3回以上同じ活動を継続して行うことで、見通しをもって取り組むことができるようになった。まずは、活動内容を丁寧に説明したり、見本を提示したりした。始めは、教師からの支援が多くなりがちであったが、繰り返すことで自ら対象物に対して手を伸ばしたり、大人からの働きかけを落ち着いて受け止めたりする様子が見られ、主体的に取り組もうとしていた。



指導の手立て

活動内容・方法

- 製作等の机上で落ち着いて行う活動と体を動かしてダイナミックに行う活動をバランスよく設定し、様々なバリエーションのものに取り組むことができるように配慮した。
- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚等諸感覚を活用して取り組める活動内容を設定した。



←音楽・プロジェクター・光のライトファイバー等を使用した光・音・香り・触覚など心地よい感覚刺激を五感で楽しめるように工夫された空間で行う活動（スヌーズレン活動）



←ローズマリーのチクチクした感触を確かめながら活動



↑柿の葉の香りや感触を味わいながら活動



↑ローズマリーの香りを味わいながら活動

教師の関わり方

- 児童一人一人の思いや願いの表出を丁寧に読み取り、言葉にして返すようにしている。また、思いや願いが教師に伝わったことが理解できるように、言葉だけでなく、ハイタッチや教師の表情等、児童本人に分かるようにフィードバックを行うようにしている。
- 教師と児童との1対1の活動が多いので、多様な他者を意識して、コミュニケーションを図ることができるよう配慮した。
- 児童がより主体的に活動に向かうことができるように、本人の様子を観察し、座位だけでなく必要に応じて立位で行うなど、児童の願いや思いなど実態に応じて姿勢を変えて行うようにした。



いつもお世話になっている方に柿の葉茶をふるまう活動を通して他者との関わりを深める活動



主体的にしゃぼん玉遊びに取り組むため立位での活動

わかたけ学級 Gさんのあしあと

Gさんは、エアトランポリンの大きめの揺れを好んでおり、笑顔で楽しい気持ちを身近な教職員に伝えていた。友達がそばにいと自分から関わろうと手を伸ばしていた。



びわジャム作りやローズマリーのサシェ作りでは、Gさんは、素材に自分から手を伸ばし、真剣な表情で取り組んだ。



ピーナッツバルーンを目の前に提示すると手をのばし、やりたい気持ちを教員に伝えていた。トランポリンでは、友達に視線を向けながら活動していた。

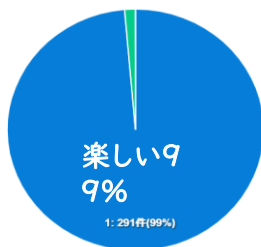


しゃぼん玉遊びでは、座位よりも立位で活動することを好んでいた。自分から友達のいる方向に歩いていき、楽しい気持ちや嬉しい気持ちを伝えていた。

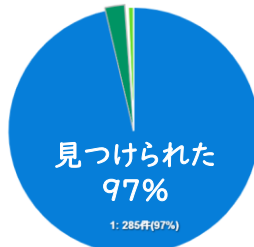


児童アンケートから

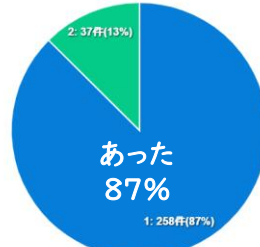
アブラカタブラゴールドの時間は楽しい時間ですか



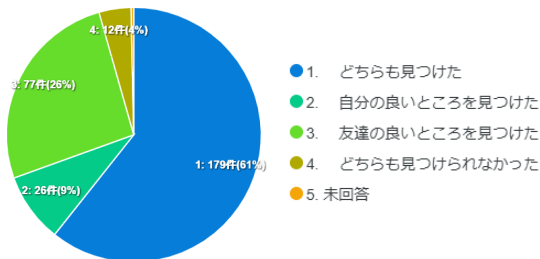
自分の好きなものや好きなこと、得意なことは見つけれられましたか



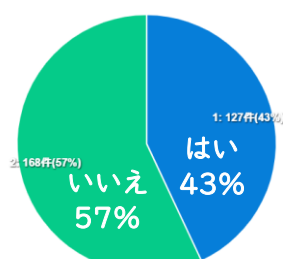
アブラカタブラゴールドの時間に、学んだこと、できるようになったことはありますか



自分の良いところや友達の良いところを見つけることができましたか



カタブラータイムで発表や展示をしましたか



成果と課題

- ほとんどの児童がアブラカタブラゴールドの時間を楽しみにしており、活動に主体的に取り組んでいる。また、学んだりできるようになったことが可視化されやすく、自己肯定感の向上にもつながっている。
- 日々の活動やカタブラータイムでの発表でお互いの経過や成果を見合っており、友達の良いところを見つけられたと回答した児童は合わせて87%と、お互いに認め合っていることがわかった。
- 発表や展示を行った児童が半数を下回った。今後もカタブラータイムを継続的に行うことで、「伝えたい」と思う児童が半数以上になることを期待する。

児童の声

アブラカタブラゴールドは、休み時間のように遊ぶのではなく、自分のやりたいことを極める時間だと思う。

時間が長いので、自分のやりたいことがいっぱいできて、先生も協力してくれる。

友達とやるのも楽しいが、一人で集中してやるのも楽しい。

アブラカタブラゴールドは、好きな場所で好きなことができるし、授業ではやらないことにも挑戦できる！

友達にさそわれてバドミントンをやってみたらおもしろかった！

アブラカタブラゴールドのおかげでボールを速く投げられるようになった。

ダンスをみんなとたくさん練習して絆を深めることができたし、発表でみんなが見に来てくれてうれしかった！

いつも趣味は何？と聞かれると思いつかなかったが、アブラカタブラゴールドをやってみたらやりたいことや好きなことがすぐ思いつくようになった。

令和6年7月16日（火） 第6学年 アブラカタブラゴールド 研究協議会での奈須正裕先生の指導

成 果

- ① アブラカタブラゴールドは、児童のやりたいことが存分にできる時間が学校にあるという点で評価できる。児童の興味のあることや好きなことが学校でできて、認めもらえること、学校という公的な空間で承認され、認められるということは、その子の尊厳にかかわることであり、自己有用感や自己肯定感をはぐくむことにもつながる。教師も一緒に楽しんだり支えたりするとよい。
- ② 「私は私でいい」「友達は友達でいい」というように児童が相互承認できるようにすると、児童は自分らしく自由に生きられるようになる。今日のアブラカタブラゴールドでは、友達の好きを承認してあげていた児童がいた。「あなたが好きなことが私にとっては苦手だが、あなたが好きなことは認める」という考え方をもちことができたなら素晴らしい。

課 題・指 導

- ① 興味・関心のあることを調べて発表する技能訓練をしているわけではない。技能を伸ばすことを重視しないほうが良い。児童が好きなことを考えている時間を見つめるべき。
- ② 発表、話す、自己調整の力もつくが、それは二の次。力をつけるためにアブラカタブラゴールドを実践するわけではない。
- ③ 一方で各児童の追究が深まるようにカリキュラムは構成すべきである。そのためにも、週に20分という時間設定は短い。実験やものづくりを行う児童にとっては、足りない。週1回45分でも短い。愛知県南浦町立緒川小学校では、アブラカタブラゴールドのようないわゆる「フリースタイル」の時間を最低80分を4週かけて実践すると決めていた。研究開発学校なのだから、いろいろ試してみるとよい。20分と40分どちらがよかったか、検証すること。失敗もよい。子供にも聞いてつくればよい。
- ④ 教師の役割は、「場をつくる」「相談に乗る」「寄り添う」「聞いてあげる」などである。
- ⑤ 低学年のフリースタイルの実践はあまりやっていない。ぜひ油面小学校独自の低学年のノウハウを蓄積してほしい。
- ⑥ アブラカタブラゴールドの時間に、児童がどのような取り組みを行うかについては、担任と個別に相談してテーマを決めるとよい。児童理解にもつながる。
- ⑦ 子供は調べるよりも、やってみる、つくってみる、してかす方が自然である。アブラカタブラゴールドの時間はそのような児童の姿を目指す。先生も自分の好きなことをやって、やりたいことを存分にやってみればよい。

令和7年2月13日(木) 第2・3学年 アブラカタブラゴールド 研究協議会での奈須正裕先生の指導

成 果

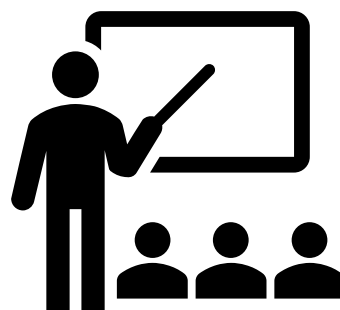
今日のアブラカタブラゴールドの活動で良いな、輝いているなと思った児童については、それがその児童の本来もっている力であり、タイミング・文脈・筋道が合えばこれだけの力が出せることを教師全員で確認できた有意義な時間であった。

課 題・指 導

- ① アブラカタブラゴールドのような活動は、通常は総合的な学習で行う。中核活動といい、学校の中核になる活動を教師と児童が楽しく行い、子どもたちがやりたいことを存分にやるのが大切である。「何ができるようになればよいか」や「何を身に付けようか」といったことをあまり求めず、児童が自分たちのやりたいことを存分につくるようにする。
- ② アブラカタブラゴールドを通して、育つことは大事だが、知識・技能などの資質・能力が身に付かなくても良い。児童が育てば良い。育てている時に児童は自然と学んでおり、その時、児童は「学ぼう」とは思っていない。
- ③ 学力や技能などの成果を児童に求める必要はない。アブラカタブラゴールドでは、教師は児童に手を出す必要はない。児童のやっていることに対して手を出しすぎている。声をかける場合も、児童が行っていることの文脈を見て声をかけなければいけない。総じて早すぎる。児童が行っている様子から、何をやっていて、何ができて、何を話したいかをくみ取る必要がある。その子の見ている正解を見る。やっていることを分かってほしいと思っているわけではなく、やっていることの文脈に寄り添ってほしいという思いを汲むことで、思いが同調していく。もっと長いスパンで活動を見ていくことが大切。1回目の活動でできなくてもよい。2回目3回目には声をかけてもよい。この子が本来どこから、どのように育とうとしているのか、育ててきているのか見守る。その中で、うちから育ててくることを盛り上げる。一人一人の子供の育ち、どのように育ちたいのか見取ってあげることが大切まごまごしている行動も見られるが、それがないと先に進めないものであり、必要な行動である。
- ④ 児童の育ちのペースに合わせる、その子の育ち・学びのペースで学習をする環境を整える。一人一人の違う良さを発見して、学べるようになる活動にアブラカタブラゴールドを改善していくこと。
- ⑤ アブラカタブラゴールドについて、学校の教育課程の中で、どのような位置付けにするのか、考える必要がある。児童にとって自分のやりたいことができるこの時間はとても楽しい時間であるのだから、学力のことや、この時間はどんな力を身に付けさせてないといけないなどとは考えないでよい。

課題・指導

- ⑥ 児童にとって、好きなこと、得意なこと、時間を忘れることを見つけることが大切である。さらに、児童が好きなことと、得意なことが違うことに気が付くことも大切である。
- ⑦ 流行りでみんながやっていることに影響を受ける児童もいるが、その流行をずっと行っている児童はほんの一部である。教師が声をかけて色々な方を向かせようとしなくても良い。フラフラしないと、自分のやりたいことは見つからない。そのために色々なものと出会って、自分を探すのがこの活動のよいところである。
- ⑧ 声をかける場合、「あなたこういうこと好きなのね」等、教師の気づき、振り返るような声掛け、教師が素敵だなと思ったことを伝えるのがよい。
- ⑨ 活動スパン案としては、前期20時間程度、後期20時間程度の2期に分けるなどのやり方がある。
- ⑩ 4月からフリースタイルプロジェクトということで、やりたいことを教師がカウンセリングするとよい。教師が児童一人一人とつながるために行うい、児童がしっかりと活動できるようにする。
- ⑪ 1か月に4回程度は同じ内容を続け、どうしてもダメな時は変更もあるという方法もあれば、回数を設けず、1回でやめても良いし、何回もやっても良いというように伝えることもできる。
- ⑫ 発表の仕方もいくつかの方法がある。朝の会、帰りの会などで順番を決めて発表をし、みんなが発表を聞けるようにする。
- ⑬ 発表する場所、発表スケジュール等はあった方がいい。
- ⑭ 通常の学級の空間のイメージは捨てて、特別支援教室など色々な場を使うようにする。



令和7年度 自己選択学習（アブラカタブラゴールド） の成果と課題（区共通アンケート及び学校評価より）

1 児童・生徒及び教員の変容（取組を通じて見られた具体的な変化や成長）

（1）教科間の学習を関連付けたり、**既習事項と本時の学習を関連付けたりする児童が増加**
【教員】授業について、児童が他の教科等の授業で学習した内容を生かして効果的に学習を進められるようにしている。「研究アンケート」6月評価9.5%→**12月10.0%**
5ポイント上昇 ↓その結果

【児童】授業について、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。
「研究アンケート」6月評価7.8%→**12月8.2%** **4ポイント上昇**

（2）授業での振り返りの指導により、**授業以外でも振り返りを行う児童が増加**

【教員】授業について、学習した内容を振り返る際に、**どのように振り返ったら良いか具体的に示すようにしている**。「研究アンケート」6月評価8.1%→**12月9.5%**
1.4ポイント上昇 ↓その結果

【児童】授業以外について、活動が終わった後に、取組の良かった点や直した方がよい点について考えている。
「研究アンケート」6月評価8.1%→**12月8.4%** **3ポイント上昇**

（3）**家庭学習について、自分で計画を立てて学習する児童が増加**

【教員】「**学び方の得意を見つける自己選択学習**」の一環として、9月より自己調整を働かせる家庭学習を行うよう教師が児童に指導を始めた。さらに、保護者へ理解や協力を求める説明を保護者会で実施した。

↓その結果

【児童】家庭学習について、自分で計画を立てて学習している。
「研究アンケート」6月評価7.2%→**12月8.0%** **8ポイント上昇**

（4）教育課程について、**学校独自の特色ある教育課程の編成（自己選択学習の時間をアブラカタブラゴールドの時間に設定して教育活動を展開している意義など）を理解**している。「研究アンケート」6月評価7.8%→**12月10.0%** **2.2ポイント上昇**

※令和7年12月時点 学校担任、音楽・図工・家庭科・体育・算数・少人数専科の合計20名中の7名（35%）の教員は、他地区からの転入・初任者・産育休代替教員である。

↓その結果

【児童①】「自己選択学習の時間」は楽しいですか。

「研究アンケート」6月評価9.2%→**12月9.4%** **2ポイント上昇**

【児童②】「自己選択学習の時間」は大切ですか。

「研究アンケート」6月評価9.5%→**12月9.5%**

児童A 誰かにこうやらない、こうしないみたいところで自分の考え方はあまり生かされないのだけれど、自己選択学習ではたくさんの場面で自由に考え方が生かされるから、楽しい。

児童B 先生に指定されたことだけだと、少しつまらないけど、自分で計画を立てて学習を進めるのはとても楽しいからです。

【保護者】自己選択学習「アブラカタブラゴールド」に対する評価

→「令和7年11月実施学校評価」**肯定的評価7.6%、分からない2.4%、否定的評価0%**

保護者A アブラカタブラゴールドは、娘にとって学校生活の中でも特に楽しみにしている時間の一つです。（通常の授業は）どうしても枠や制約のある活動になりがちですが、あの取り組みは子どもたち自身のやりたいを何より大切にしてくれていると考えています。

保護者B アブラカタブラゴールドはとても楽しんでいる娘子なので独自性があり良いと思います。

→3.5%の教員は他地区からの転入・初任者・産育休代替教員だが、**生み出した時間による効果的な校内研究や研修により、令和7年度から継続して、自己選択学習に対する児童の高評価を維持し、教育課程として機能していることを示唆している。**

2 取組事例

(1) 学ぶ領域の得意を見つける自己選択学習（アブラカタブラゴールド）

週に1回程度、第1・2学年及びわかたけ学級（肢体不自由の児童の特別支援学級）は1回40分、第3～6学年は1回60分で自身の興味・関心のあることに自由に取り組む「アブラカタブラゴールド」の時間を設定し、校内環境を活用した児童の活動を教師が支援した。



(2) 学び方の得意を見つける自己選択学習

各学年が家庭学習と年度内に1教科1単元程度を目安に、児童が自己の学びを選択・調整することができる単元づくりに取り組み、自己選択学習を実践した。中目黒小学校や烏森小学校、他地区の小学校の実践を参考に、自由進捗学習や複線型授業等に取り組んだ。



3 令和8年度に向けて（成果、課題、展望、今後の方向性等を含めて）

(1) 令和7年度での研究の成果

令和7年度12月の研究開発学校アンケートでは、自己選択学習（アブラカタブラゴールド）が好きな児童が94%、大切だと思う児童が95%となった。児童一人ひとりが自らの興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択する学習について、令和7年度から継続して、児童が高い意欲を示していることが成果である。また、振り返りの指導や他教科や既習事項との関連付けた学習、自己調整を働かせた家庭学習の実践についても一定の成果が見られた。

(2) 令和7年度の研究の課題

- ①週の時間割の1.5コマを割り当てて実践する自己選択学習（アブラカタブラゴールド）の価値や意義に対する教師や保護者の評価に差があることが課題である。例えば「貴重な裁量の時間をドッジボールなど休み時間と同じ活動に終始している児童がいて良いのか」「教師がどのように支援すれば学習となるのか」などの疑問に明確に答えられるような自己選択学習（アブラカタブラゴールド）の一層の理論整理、教師の支援力向上及び保護者への説明が必要である。
- ②区学力調査及び令和7年12月の研究開発学校アンケート結果から、児童が自己調整を働かせながら、各教科の学習の目標を達成する自己選択学習を行うことについては課題がある。

(3) 令和8年度の研究の方向性

- ①本校の自己選択学習「アブラカタブラゴールド」の実践の継続と共に、本校の自己選択学習「アブラカタブラゴールド」のア 児童の計画・振り返りの指導の充実、イ 教師の評価力及び支援力の向上を図る。
- ②定期的な校内研究の時間を要として、教科における自己選択学習（自己調整を働かせた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）の研究を進める。具体的には、各学年の実態に合った教科を選択して、年間1単元程度の自由進捗学習や複線型授業の実践を進める。

「学び方の得意」を見つける 自己選択学習

「学び方の得意」を見付ける自己選択学習の単元づくりの流れ
～自由進度学習の例～

○□	やること	いつまでに
①□	教科を決める。	3か月前
②□	単元を決める。必要な「場」と「物品」をリストアップする。	3か月前
③□	時数を決める。	3か月前
④□	まとめの文章、作品など単元の目標達成の姿（学習のゴール）を児童になったつもりで設定する。（A評価、B評価、C評価） ※学習指導要領を読み込み、教科の目標や学習過程について教材研究を行う。	1か月前
⑤□	単元の目標を達成するための、1時間、1時間の目標達成の姿（学習のゴール）を児童になったつもりで設定し、単元の計画をたてる。（例・ノート） ※他社の教科書を参考に、言語活動や具体的な作業など、配慮を要する児童も意欲的に学習が進められる活動を計画する。	1か月前
⑥□	学習を行う「場」を決め、必要な連絡・調整を行う。 ※1 専科や教科担任制に配慮し、時間割を確認する。 ※2 行事や外部団体などの使用等、管理職、担当教員にも確認し、「特別教室」や「パネル等の物品」を確保する。 （いつまで使うのかを明らかにする。）	3か月前
⑦□	導入は、児童が問いをもったり、見通しをもったり、なぜこの単元を学習するのか、この単元を学習するとどんな力がつくのか、どんなよいことがあるのかの「オリエンテーション」となるよう準備する。	1か月前
⑧□	単元の終わりから、はじめまで児童が自ら読んで学習を進められるように「学習（to do list）」カードを作成する。「計画・ふりかえり」を分けても、まとめてもよい。 ※1 ロイロで書けるようにする。 ※2 紙に書くようにする。 ※3 計画やふりかえりは書いてほしい時数を想定して枠の大きさを決める。	1か月前
⑨□	児童が自ら学習を進められるよう必要な資料や教材、作業指示などをパワーポイントなどで資料にしておく。動画授業の録画とロイロノートへの保存も積極的に進める。 ※1 ロイロノートで閲覧できるようにする。 ※2 児童数分印刷する。 ※3 A1やA0サイズなど、掲示用にプリントアウトして掲示する。	1週間前
⑩□	児童が自ら学習を進められるよう、1時間ごとの学習の答えや、おおむね満足できる状況の姿も資料にしておく。「先生チェック」を必要最低限にする工夫をする。 ※1 ロイロノートで閲覧できるようにする。 ※2 児童数分印刷する。 ※3 A1やA0サイズなど、掲示用にプリントアウトして掲示する。	1週間前
⑪□	学習の進捗確認・評価ができる名簿やホワイトボード、ネームプレートなどを準備する。	1週間前

自由進度学習の単元開始、1週間前に準備が終わるようにする！！

各学年・わかたけの概要

学年	実施時期	教科	単元	時数	主な内容
第1学年	11・12月	国語科	読む 「じどう車くらべ」 書く 「じどう車ずかんをつくろう」	9	説明文を読んで学んだ「問い」と「答え」の構造を生かして、自分が選択した自動車について説明文を書く。
第2学年	10・11月	算数科	かけ算	33	学び方や順序、発表方法を選択して、九九を意味やくみを理解するとともに、暗唱する。
第3学年	1・2月	国語科 社会科	書く 「たから島のぼうけん」 「目黒区のうつりかわり」	18	【国語】たからの地図から物語を想像し、はじめ、中、おわりの構造で物語を書く。書き方を選択する。 【社会】目黒区の昔と現在を比べて、土地の使われ方、人口、交通、公共施設、くらしの道具の変化を理解する。調べる順序、調べ方、表現方法を選択する。
第4学年	10・11月	社会科	「とどけよう 命の水 ～玉川兄弟と 玉川上水の 開発～」	8	玉川兄弟の玉川上水開発によって、江戸の水不足を解決したことを、調べ方、調べる順序、表現方法を選択して調べ、理解する。
第5学年	1月	体育科	「器械運動 跳び箱」	8	自分に合った高さの場を選択し、開脚跳び 抱え込み跳び 台上前転 首はね跳び の技能を高める。
第6学年	9・10月	算数科	分数÷分数	8	分数÷分数の意味や計算の仕方を学び方を選択して理解する。
わかたけ	9・10月	図画工作科	スタンプアート	6	色や道具を選択し、画用紙にスタンプしながら、イメージした絵をかく。

第1学年

単元内自由進度学習学習 全9時間

国語科

『じどう車くらべ』

一斉

1時

- (1) 知っている自動車について出し合い、自動車にはいろいろな種類があることに興味をもつ。
- (2) 説明文を読み、文章中の「問い」を探す。

2時

「しごと」と「つくり」について、という二つの問いがあること、三つの事例を挙げて書かれていることを確かめる。

3～5時

- (1) バスや乗用車の「しごと」と「つくり」をカードにまとめる。
- (2) トラックの「しごと」と「つくり」をカードにまとめる。
- (3) クレーン車の「しごと」と「つくり」をカードにまとめる。
- (4) 「しごと」→「その ために」→「つくり」という順で説明されていることを確認する。
- (5) 説明文の事例の順序について考え、構成の意図を捉える。

6時

はしご車についてカードにまとめながら、自動車ずかんの作り方について知る。

自由進度（じどう車ずかんをつくろう）

7時・8時

自分の興味をもった自動車を調べ、カードにまとめて「じどう車ずかん」を作る。

- ① 本や図鑑、動画などを使って、紹介したい自動車の「しごと」について調べ、分かったことを書く。
- ② 調べて分かった「つくり」から、「しごと」を説明するのに必要だと思う「つくり」を抜き出してカードにまとめる。
- ③ 順序などに間違いがないか確認し、絵を描いてカードを完成させる。

一斉

9時

- ・書いたカードを冊子にまとめ、「じどう車ずかん」を完成させる。
- ・「じどう車ずかん」を読み合い、感想を伝え合う。

学習の様子



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 図鑑を作る際のワークシートを選択できる。
 ア つくりとしごとが分けて書けるようになっているワークシート
 イ つくりとしごとが分けてあって、
 さらに接続後も書かれてかれてあるワークシート
 ウ 罫線だけのワークシート)
- ② 学習形態を自分で選択できる。
 ア 一人学習 イ 友達と学習 ウ 先生と相談して学習
- ③ 調べる素材を選択できる。
 ア 図鑑 イ 電子図書 ウ のりものの模型 エ 動画

自ら学びを進めるための工夫

- ① 前単元「じどう車くらべ」の説明文の読み取りをまとめた際に使用したワークシートの形式を本単元「じどう車ずかんをつくろう」において、各児童が資料から読み取った「車のつくり」をまとめ際にも使用した。このような工夫により、本単元で調べたことをまとめる際に、迷うことなく、既習経験を生かして、まとめることができた。
- ② 調べたことをまとめるワークシートを3種類用意し、取り組みやすい様式を児童が選べるようにした。
- ③ 調べる方法を、本、動画、電子書籍、おもちゃと、様々用意したことで、児童が自分にあった方法で、学習を進められることができたようにした。
- ④ 調べるために必要な、動画の見方を事前指導した。また、調べるために必要な電子書籍の該当するページの記録の仕方を事前指導した。これらの工夫により、児童が円滑に自ら学習を進められるようにした。

第2学年

単元内自由進度学習 全 33時間

算数科

一斉

1～5時 「かけ算」の概念を知る。

6～7時 5の段の九九 かけ算九九の仕組みについて※九九検定はこれ以降、毎時間実施

自由進度

8～14時 乗法九九の構成や唱え方などを考えて、自分なりに表現する。

めあて「クラスみんなでかけ算九九を身に付けよう」

どの段から取り組むか、
児童が自分で決める。
1の段、2の段、3の段、
4の段、5の段、6の段
7の段、8の段、9の段

九九の仕組みや法則を
見つけながら、覚えていく。



教師の支援① 配付・配置教材・教具

九九カード(単語帳タイプ)

九九一覧ミニカード

九九検定カード(苦手な児童用)

九九フラッシュカード・動画等
(苦手な児童用)

教師の支援③ 掲示教材

かけ算九九コーナー

めくり九九クイズ

教師の支援② 学習アイデア(掲示)

九九 虎の巻

九九迷路

九九 塗り絵

九九 ゲーム

九九クイズ

九九を覚えるコツの伝授

九九秘密の伝え合い

一斉

15～16時 各自が学んだことを発表し、共有する。(1回目)

自由進度

17～24時 友だちの発表を受けて乗法九九の構成や唱え方などを考えて、自分なりに表現する。学習アイデアを提示する。九九に関する掲示物掲示する。

一斉

23～26時 各自が学んだことを発表し、共有する。(2回目)

26～33時 まとめ

学習の様子



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 学ぶ順を選択できる。
- ② 学ぶ道具を選択できる。
(九九カード、一覧ミニカード、フラッシュカード等)
- ③ 一人で学習、友達と学習、先生と相談して学習を選択できる。
- ④ 検定合格後は、知識を深めるための取組を自分で選択できる。
(プリント学習、アイテム作り、友達に教える等)



自ら学びを進めるための工夫

- ① 5分:前時までの定着確認・本時のめあての確認
30分:学習
5分:振り返り
=40分のサイクルを継続する。
- ② 毎時間、九九検定を行う。可能な限り、特別支援教育支援員等と連携して指導にあたる
- ③ 何度も受け直すと混雑してしまうため、まずは友達チェック、次チェックを経て、先生チェックを受けるよう提案する。最終選択は先生に任せる。
- ④ 様々な教具・教材を用意することで、児童が自分に合った物を使って乗法九九を覚えることができる。
- ⑤ 学校で学習する前に既に乗法九九を身に着けている児童もいる。そのため検定に合格後は、自分のもつ知恵や知識を使って、乗法九九を覚えるためのアイテムを作ったり、プリントに取り組んだりすることができ、学級内の児童の学力にばらつきがあっても対応できる。



第3学年

2教科単元内自由進度学習 全 18 時間

国語科

『たから島のぼうけん』

一斉

1時 教師が作った「黄金のバナナ」の物語を聞き、物語づくりに興味・関心をもち、自分も物語を書きたいという意欲と単元の学習の見通しをもつ。

読む人が元気になる宝の地図の物語をはじめ、中、おわりの組み立てて書こう

社会科

『目黒区のうつりかわり』

一斉

1時 学習問題をつかみ、既習事項（土地利用・人口・公共施設・交通・くらしの道具）の観点に基づき、予想する。

目黒区のまちの様子や人々のくらしはどのように変わってきたのか？

2時 予想に基づき、何をどのように調べるか学習計画を立てる。

自由進度

2時

①宝の地図のイラストを根拠に登場人物や人物像、旅で訪れる場面や困難を想定する。

3時

4時

②物語を組み立てる
はじめ、中、終わりの構成
ア はじめ（前話）
イ 中1（できごとの始まり）
ウ 中2（物語の山場）
→設定した中心人物が最も変容する場面
エ おわり（後話）

5時

6時

③物語を書く
組み立てた構成、場面ごとに物語を書く。

7時

④場面の順序や、登場人物の行動、せりふを工夫して物語を書く。

一斉

8時

友達と作った物語を読み合う。

9時

物語の修正・学習のふりかえり

3時

①目黒区の土地の使われ方はどのように変わったのか調べる。
（田畑→住宅、村→町→区）

4時

②目黒区の人口はどのように変わったのか調べる。
（人口は増えた。）

5時

③目黒区の交通の広がりは、どのように変わったのか。
（鉄道や道路が増え、広がった。）

6時

④目黒区の公共施設はどのように変わったのか。
（増えた。）

7時

⑤くらしの道具はどのように変わったのか調べよう。
（洗濯板→洗濯機）※体験コーナー

8時

一斉

9時 まとめ・ふりかえり

目黒区は、昔は田畑が多く、村だったが、しだいに人口が増え、よりよくくらしたいという願いにより、交通が広がり、公共施設も増え、道具も便利にへんかして、ゆたかなくらしに変わってきた。

学習の様子



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 国語又は社会のいずれかの教科を選択できる。
- ② 国語科は、物語を組み立てる方法を選択できる。
ア 学習用情報端末・ロイロノート イ 付箋 ウ ワークシート エ ノート
- ③ 社会科は調べる順番を自分で選択できる。
ア 土地の使われ方 イ 人口 ウ 交通 エ 公共施設 オ 暮らしの道具
- ④ 一人で学習、友達と学習、先生と相談して学習を選択できる。
- ⑤ ノートに書く、ロイロノートに入力、図に表してかくなど、表現方法を選択できる。

自ら学びを進めるための工夫

- ① 5分：計画＋30分：学習＋5分：振り返り＝40分のサイクルを継続する。
→学びを自分で進め、コントロールする経験を自覚させ、改善を促した。
- ② 毎時間、教師による丸付けや指導を行う「先生チェック」を受け、18時間の学習時間内で、円滑に学習を進められるようにした。
- ③ 「先生チェック」が混まないよう、回答例や解説プリントを準備し、可能な限り、児童自らが学習を進められるようにする。
- ④ 国語科については、「学習計画」「物語の手本」「物語の組み立ての手本」等の掲示、ロイロノートを活用した資料閲覧などの環境を整えとともに、完成した物語の作品を掲示やロイロノート内で共有し、学習に必要な情報を活用しながら児童自らが学習を進められるようにした。
- ⑤ 社会科については、「村→町→区」「田畑→住宅」「人口増」「交通の広がり」「公共施設の変遷」「生活の道具の変遷」「洗濯板体験コーナー」を掲示したり、ロイロノートで情報を共有し、必要な情報を自分で入手しながら学習を進められるようにした。

【児童Aの作品】



【児童Bの作品】



【児童の感想】

自由進度学習は、自由に自分のペースで学べるし1人で集中してできるから、これからもやりたいです。

自分のペースでできて、あせらずでできるのがいい。友達とできるのがいい。休んだときがあつて、ぎりぎりになってしまった。

友達とできる。自分の好きなペースでできる。教え合える。頭が良くなる。

静かに進められて、自分で決められて楽しかった。困ったらすぐに聞くことができる。

【講師による指導 上智大学 教授 奈須 正裕 先生】

1 成果

- (1) 国語科では「黄金のバナナ」という物語を手本として児童に示す教材の工夫がよかった。児童にとっては、物語を書くことへの意欲がわき、学習のゴールイメージがもてる。児童が不足や不十分さを感じるようなレベルの物語や、高いレベルの物語を提示するとよりよい。
- (2) 学年で、油面小学校のような通常の校舎でも、2教科单元内自由進度学習ができることを示すことができた。

2 課題及び指導

- (1) ふりかえりカードは、どれくらいの文字数で、どのような内容を書かせることをねらっているのかを計画して作成すること。今回のふりかえりカードは小さい。2枚目が裏に印刷されていることも児童にとっては使い辛い可能性がある。ロイロノートなど電子のカードがよい場合もある。
- (2) 社会科は目黒区の副読本を教材にしているが、内容が概略的過ぎてつまらない。児童が作業を通して、社会的な見方・考え方を働かせられるような教材研究・教材開発をすること。
- (3) 学習中に児童の活動を止めて全体指導を行うこと、学習の冒頭の計画と、終末に振り返りを書くことを指示することはやめること。児童は聞いていないし、今没頭している学習を止めることになる。冒頭と終末などは、音楽などで時間を意識させるとよい。
- (4) 気になる児童、例えば学習に取り組んでいない児童や間違えた回答をしている児童をみつけても、すぐに声をかけないこと。できれば課外の時間で、声をかけ、学習改善に向けて相談をすること。総時間内に、2教科の学習目標を達成してればよいという「契約」の考え方で児童に接して、児童の自立を促すこと。
- (5) 自由進度学習は、新しい学習方法ではない。50年以上の歴史と学習科学に裏付けられた実践である。全教師が中目黒小などの先行実践校の授業を見て、学ぶこと。

第4学年

単元内自由進度学習 全 8 時間

社会科

『とどけよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～』

一斉

1時 学習問題をつかみ、玉川上水ができるまでの課題を知り、課題に基づいて予想する。

玉川上水は、どのような工夫や努力をしてつくられたのだろうか？

2時 予想に基づき、何をどのように調べるか学習計画を立てる。

自由進度

3時

【問1】水路はどこをどのように江戸まで通されたのか調べる。

【問2】どのような道具を使い玉川上水を作ったのか調べる。

【問3】どのようにたくさんの人を集めたのか調べる。

4時

【問4】どれくらいのお金を集めたのか調べる。

【問5】だれがお金を支払ったのか調べる。

5時

【問6】なぜ羽村から水をひいたのか調べる。

【問7】水は江戸のまちの家々にどのように配られたのか調べる。

6時

【問8】どのように水を管理したのか調べる。

※太字は4時間の調べ学習内で、全員が必ず調べ抑えるべき問い

【準備教材物】

「道具の体験コーナー」

- ①鍬(くわ)
- ②籠(かご)
- ③鋤(すき)
- ④鋤簾(じょれん)

「本コーナー」
関連図書

一斉

7時 まとめる

玉川兄弟が工事を行う人々と協力して正確に計算し、羽村から四谷大木戸まで、高いところから低いところへ、水が流れるように、8カ月で水の通り道を掘り進めたことで、多摩川の水を江戸の人々に届けることができた。

8時 つたえる

友達にこれまで調べたことや学習問題に対するまとめを共有し、学習を深める。

学習の様子

図書館のような環境で学習を進めることができる



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 自ら疑問に思ったことを課題に据えて学習を進めることができる。
- ② 学習課題を自分の順番、配分で追究することができる。
- ③ 単元内の玉川兄弟だけでなく、地域に貢献した人物を発展学習として調べることができる。
- ① 一人で学習、友達と学習、先生と相談して学習を選択できる。
- ② ノートに書く、ロイロノートに入力、図に表してかくなど、表現方法を選択できる。

自ら学びを進めるための工夫

- ① 単元「いのちの水をとどける」を「一斉学習2時間」+「自由進度学習4時間」+「伝え合う学習2時間」として位置づけ、学習したことを伝え合うというゴールが明確となるようにした。
- ② 調べるための資料を「教科書」「図書資料」と限定することで、資料の生かし方を身に付けさせるようにした。
- ③ 図書資料を使った際に、付箋を貼ることで学習の足跡を知るだけでなく、友達の学習の手がかりにもなる。
- ④ 「もっこ」や「くわ」など当時の工事道具のレプリカを提示することで、具体的な道具の使い方や重さを知ることができた。この過程で、手作業の工事の大変さだけでなく、測量技術のすばらしさに気付くことができると考えた。

第5学年

単元内自由進度学習 全 8 時間

体育科

『器械運動 跳び箱』

1時

学習の行い方を知り、跳び箱運動に楽しく取り組む。

2時

一斉

一斉

自由進度

3時

1 切り返し系
(1) 開脚跳び
(2) かかえ込み跳び
2 回転系
(1) 台上前転
(2) 首はね跳び
の技の行い方を知る。

切り返し系
回転系
の自分の課題を
確認する。

自分の課題に合っ
た「場」を
選択し、
学習に取り組む。

4時

5時

1 単位時間

一斉の時間が
少なる

自由進度の時間
が増える

6時

一斉

自由進度

自由進度

自分の課
題を
確認する。

自分の課題に合った「場」を選
択し、取り組む。

学びを共有し、再度
自分の課題に合った
場を選択し通り組む。

7時

1 単位時間

8時

一斉

学習の成果を発表す
る。

学習の様子



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 取り組みたい技を自分自身の跳び箱の技能の習熟度に応じて選択できる。
- ② 課題解決の「場」を課題に応じて選択できる。
- ③ 学習用情報端末を活用することにより、友達との取り組みや学習の達成度を表にした評価表（ループリック）を参考にして、自己の課題発見方法を選択できる。

自ら学びを進めるための工夫

- ① 単元冒頭に全員が切り返し系、回転系に取り組む経験をすることができるようにした。
- ② 学習の進め方、技の行い方、自己の課題発見、課題解決の仕方、場の学び方、グループでの見合い方などを丁寧に指導をした。
- ③ 技の達成度と課題を視覚的に見やすく表にした評価表（ループリック）を作成し、児童同士が技の課題発見や見合い、課題解決を図ることができるようにした。
- ④ 振り返りシートに、使った場や達成度、学びの振り返りなどを記載し、課題発見→場の選択→技能のポイントと自らの運動との比較・分析→新たな課題の発見・・・という学習改善のサイクルを回すことができるようにした。

第6学年

単元内自由進度学習 全8時間

算数科

『分数÷分数』

一斉

- 1時 ・オリエンテーション(全体で集合)
 (1) これからの学習の仕方
 (2) シラバスの使い方
 (3) 自分に合った教室を選択
 ・自ら選択した空間に移動し、学習を始める。
 (第1時、第2時のワークシートを用意)



自由進度

2時 教科書に沿って自分のペースで学習を進める。
 (ワークシートや資料を参考にする。)

3時 各教室の先生に丸付けをしてもらい、シラバス
 4時 にチェックをしていく。(教科書、計算ドリル)

5時 シラバスのすべての項目に先生からのチェック
 が付いたら、テストに進む。

6時 すべて終わった児童は、ワークシート等自分の
 7時 課題に取り組む。

6年「分数どうしのわり算の意味やしかたを考えよう」(7時間)

目標① 分数同士のわり算の計算ができるようになる。
 目標② 問題を解いて数直線に表し、式を立てることができるようになる。

学習項目	学習時間	学習場所	学習方法	学習内容	学習結果
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	1	1	1	1
【学習項目】 いろいろなわり算を考えたとき、 どうなるのか。	10分	2	2	2	2
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	3	3	3	3
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	4	4	4	4
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	5	5	5	5
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	6	6	6	6
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	7	7	7	7
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	8	8	8	8
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	9	9	9	9
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	10	10	10	10
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	11	11	11	11
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	12	12	12	12
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	13	13	13	13
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	14	14	14	14
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	15	15	15	15
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	16	16	16	16
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	17	17	17	17
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	18	18	18	18
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	19	19	19	19
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	20	20	20	20
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	21	21	21	21
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	22	22	22	22
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	23	23	23	23
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	24	24	24	24
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	25	25	25	25
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	26	26	26	26
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	27	27	27	27
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	28	28	28	28
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	29	29	29	29
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	30	30	30	30
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	31	31	31	31
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	32	32	32	32
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	33	33	33	33
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	34	34	34	34
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	35	35	35	35
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	36	36	36	36
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	37	37	37	37
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	38	38	38	38
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	39	39	39	39
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	40	40	40	40
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	41	41	41	41
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	42	42	42	42
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	43	43	43	43
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	44	44	44	44
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	45	45	45	45
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	46	46	46	46
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	47	47	47	47
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	48	48	48	48
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	49	49	49	49
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	50	50	50	50
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	51	51	51	51
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	52	52	52	52
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	53	53	53	53
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	54	54	54	54
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	55	55	55	55
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	56	56	56	56
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	57	57	57	57
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	58	58	58	58
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	59	59	59	59
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	60	60	60	60
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	61	61	61	61
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	62	62	62	62
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	63	63	63	63
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	64	64	64	64
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	65	65	65	65
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	66	66	66	66
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	67	67	67	67
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	68	68	68	68
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	69	69	69	69
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	70	70	70	70
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	71	71	71	71
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	72	72	72	72
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	73	73	73	73
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	74	74	74	74
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	75	75	75	75
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	76	76	76	76
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	77	77	77	77
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	78	78	78	78
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	79	79	79	79
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	80	80	80	80
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	81	81	81	81
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	82	82	82	82
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	83	83	83	83
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	84	84	84	84
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	85	85	85	85
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	86	86	86	86
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	87	87	87	87
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	88	88	88	88
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	89	89	89	89
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	90	90	90	90
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	91	91	91	91
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	92	92	92	92
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	93	93	93	93
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	94	94	94	94
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	95	95	95	95
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	96	96	96	96
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	97	97	97	97
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	98	98	98	98
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	99	99	99	99
【学習項目】 分数÷分数の計算は、 どのようにすればよいのか。	10分	100	100	100	100

名前

自分が学びやすい空間を選択し、学習を進める。

- ① ソロ・ラウンジ (Solo Lounge)
- ② ウイズ・ティーチャー (with Teacher)
- ③ ウイズ・フレンズ (with Friends)
- ④ フレンズ アンド ティーチャー (Friends & Teacher)
- ⑤ バイ・マイセルフ (By myself)



一斉

自由進度

- 8時 ・テスト
 ・今回の学習についてのアンケート
 (ロイロノートにて、学習方法についての感想[よかったところ、改善点 等])
 →次時の単元の学習に生かす(様子を見てアップデートをする。)

学習の様子



わからないところは先生に
教えてもらいます



友達同士で教え合って進
めています



最後にテストを受けます



早く終わった児童は、発展
問題に挑戦しています

学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

(1) 学習形態(空間)を選択でき、一単位時間の中でも移動することができる。

空間①ソロ・ラウンジ(Solo Lounge)

1人学びを基本とし、静かな空間で学習に取り組むことができる。

空間②ウイズ・ティーチャー(with Teacher)

教師によるミニレッスンを受けたり、
分からないところを教師に聞いたりできる。

空間③ウイズ・フレンズ(with Friends)

友達に聞いたり、教え合ったりして学習を進めることができる。

空間④フレンズ アンド ティーチャー(Friends & Teacher)

友達と協力して学習に取り組みつつ、
分からないところを教師に聞くことができる。

空間⑤バイ・マイ・セルフ(By myself)

自己の学習の習熟度に合わせて、発展的な学びに挑戦できる。

(2) 1単位時間(40分間)で取り組む算数の学習内容や進度を選択できる。

(3) 毎単元末、学習成果を分析し、自分に合った学び方を選択できたかどうか振り返り、次時の学習
の課題や計画に生かすよう指導する。

自ら学びを進めるための工夫

- ① 単元の学習計画(「シラバス」と呼称)に沿って進めることで、
学習の進捗と残り時間を常に確認し、学習を遅滞しないよう
調整できるようにした。
- ② 児童が教師による丸付けや指導(「先生チェック」と呼称)を
受けることにより、決められた学習時間の中で、即時学習の
成果を確認しながら、効率的に学習を進められるようにした。
- ③ 「先生チェック」が混まないよう、児童自身による丸付けや
やり直し(「セルフチェック」と呼称)を行うことも可能とし、丸
付けを待つ時間を削減した。
- ④ 算数問題を印刷したプリントを置くコーナー(「プリントバー」
と呼称)設置し、予習・復習・補充問題を充実させ、単元の学
習内容の習熟・定着を図った。



わかたけ

単元内自己選択学習 全 6 時間

図画工作科

『スタンプアート』

一斉

- 1時 ローラーを使って色付けをする。
ペットボトル容器を使った梱包材スタンプで模様を付ける。
- 2時 ローラーを使って色付けをする。
ペットボトル容器を使った梱包材スタンプで模様を付ける。
- 3時 ローラーを使って色付けをする。
様々な形の梱包材に絵の具をなじませた後、画用紙に置いて、はがし、模様を付ける。
- 4時 ローラーを使って色付けをする。
様々な形の梱包材に絵の具をなじませた後、画用紙に置いて、はがし、模様を付ける。

自由進度

5時

ぬたくりかローラーを使うか選択して画用紙に色付けをする。
ペットボトルを使った梱包材スタンプ、カットしただけの梱包材を使うか
選択して模様を付ける。

6時

ぬたくりかローラーを使うか選択して画用紙に色付けをする。
ペットボトルを使った梱包材スタンプ、カットしただけの梱包材を使うか
選択して模様を付ける。

学習の様子

【自由進度学習 6時間目】



学び方の得意を見つけるために自己選択・自己調整できること

- ① 絵の具の色を選択できる。
- ② 絵の具をに直接手で触れ、感触を味わいながら色付けするか道具を使って色付けするか選択できる。
- ③ 梱包材に直接触れて感触を味わいながらスタンプをするか、道具を使ってスタンプをするか選択できる。

自ら学びを進めるための工夫

- ① 色の選択では、2択にするかそれ以上から選ぶか実態に応じて選択の方法に配慮する。それぞれの見え方、目の使い方に配慮して視線を向けやすい位置で提示する。
- ② 画用紙の色付け方法については、様々な方法があることを実際に経験する機会を設定する。今回の单元ではローラーのみ使用したが、手でのぬたくりは既習しているので、ローラーのみ取り扱った。
- ③ 梱包材については、手指の使い方に合わせて、それぞれが得意な方法で取り組むことができるように選択する場面を設定する。
- ④ 選択場面を多く設定することで、自分なりの方法で自己選択できる場を増やし、意欲を高めながら、主体的に活動できるようにする。



終わりに

本校では「40分授業午前5時間制」により生み出した時間を自己選択学習として活用し、児童の自己調整力の向上を目指してきました。令和5年度まで教員が自分の好きな、得意なことを児童に伝えていた「アブラカタブラ教室」を令和6年度から児童による「アブラカタブラゴールド」の時間として設定しました。自分が興味をもったことを自分のペースと方法でとことん追究すること、人との関わりの中で自分の思いを伝える中で自己肯定感を高め、他者のよさをみつけ認めることができるように研究を進めてまいりました。

2年間ご指導いただきました上智大学教授 奈須正裕先生には大変熱心にご指導いただきました。感謝申し上げます。

先生にご指導いただいた「子どもが自分らしく自分の人生を生きる場」「やりたいことを存分にやれる場」を十分に確保していけるよう、今後も研鑽を重ねて参ります。ありがとうございました。

目黒区立油面小学校 副校長 吉田 真紀子



令和6・7年度 ご指導いただいた先生

上智大学 教授 奈須 正裕 先生

令和6年度 教職員 ◎研究主任

【校長】衣非 まさ子 【副校長】吉田 真紀子

【教諭】鈴木 彩奈絵、石井 誠人、渡邊 凜々子、渡部 彰子

岩瀬 めぐみ、小杉 雄基、都澤 弘明、新垣 陽子、土田 冬樹

吉田 宏、小野寺 遥、澁谷 美江、古屋 博大、上原 美南

日下部 和哉、平田 孝一郎、水越 凧彩、前田 康太、馬場 舞

鳥居 泰、黒木 藍、◎菅谷 久留美、服部 鮎美、浜中 彩加

有近 真帆、篠田 幸恵、江口 綾子

令和7年度 教職員 ◎研究主任

【校長】衣非 まさ子 【副校長】吉田 真紀子

【教諭】武田 佳奈、石井 誠人、渡邊 凜々子、青木 華子

宗岡 理香恵、岩瀬 めぐみ、渡部 彰子、小野寺 遥

◎平田 孝一郎、吉田 宏、上原 美南、都澤 弘明

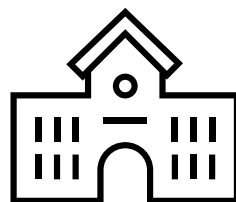
小沼 勇貴、古屋 博大、前田 康太、馬場 舞、土田 冬樹

日下部 和哉、小杉 雄基、鳥居 泰、城崎 陽子、服部 鮎美

篠田 幸恵、古屋 寛大、有近 真帆、江口 綾子

視察を受け入れてくださった学校

目黒区立中目黒小学校
小金井市立小金井南小学校
愛知県南浦町立緒川小学校



学び方の
得意

学ぶ領域の
得意